

中年期の無配偶女性が抱える高齢期に向けた 貧困リスク

研究種目： 若手研究

研究期間： 2018年度～2021年度

研究分野： 家政学および生活科学

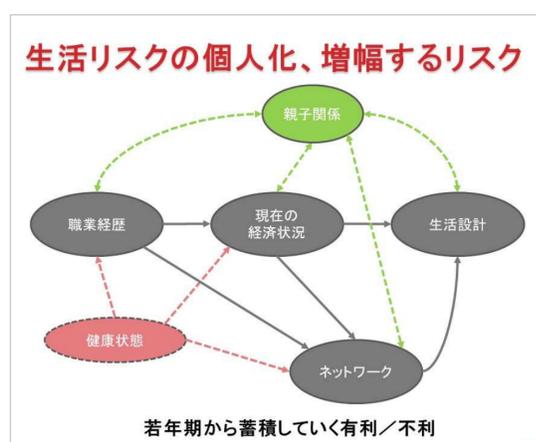
現代人間学部 生活環境学科

准教授 **大風 薫**



現代の日本社会において中高年期を無配偶で過ごす女性が増加し、その貧困率の高さが各種の統計調査によって明らかにされている。だが、この問題に対する研究関心は未だ低く、無配偶女性の貧困が、なぜ、どのように生じるのかについての研究は進展していない。そこで本研究は、中年期の無配偶女性を対象として(1)就労、家庭生活、家族関係の実態を把握し、(2)これらの経済面・時間面・社会関係面の困難との関係を明らかにし、彼女らが潜在的に抱える高齢期の経済的な貧困リスクを追究することを目的に行う。

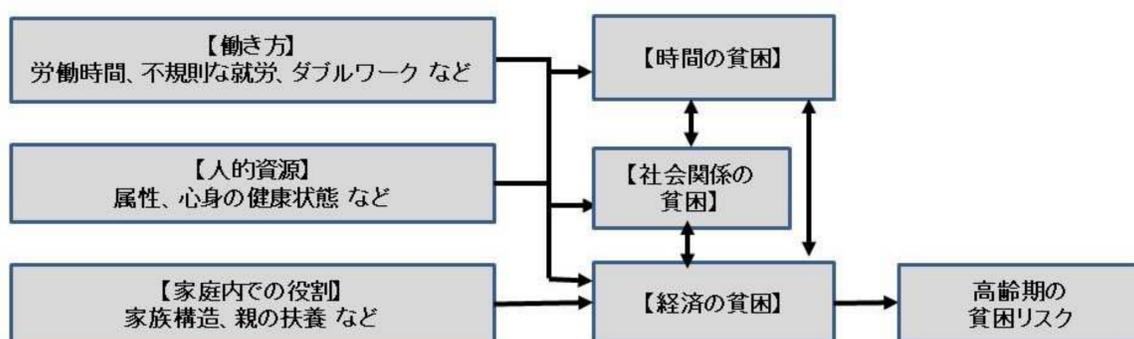
研究対象は、中年期の未婚者や離別者である。研究期間は4年間で、まずインタビュー調査によって、対象者の生活の実情を、経済状況、仕事と家庭内役割、老親やきょうだいなどの定位家族との関係から詳細に把握する。次に、質的調査の分析結果や、生活経営学・ライフコース・家族社会学の理論や先行研究をもとに質問紙を作成し、Webによる量的な調査を実施するという方法をとる。



主な論文

- 1) 論文「中年期未婚者の就業と生活リスクーキャリア形成・転職・能力開発に注目してー」(2021)『年金研究』No.15: 17-51.
- 2) 論文「未婚男女の就業継続意向ー年代・家族内役割からの検討ー」(2021)『労働政策研究報告書長期雇用社会のゆくえー脱工業化と未婚化の帰結ー』No.210: 123-140.
- 3) 論文「中年期シングル女性の生活設計における課題ー持続可能な生活に向けてー」(2021)『生活経営学研究』No.56: 18-24.
- 4) 論文「シングル介護者のストレスプロセスー家計認識への着目と配偶関係の違いによる検討ー」(2019)『生活経営学研究』No.54: 30-39.
- 5) 学会報告「The impact of Japanese mothers' Internet use on intergenerational relationship and mothers' and fathers' childcare involvement」(2019) RC06-VSA International Conference the Family in Modern and Global Societies: Persistence and Change.

研究モデル



京都ノートルダム女子大学
研究・情報推進課

電話：075(706)3789

FAX：075(706)3793

電子メール：kenkyu@ml.notredame.ac.jp